

中央社会保険医療協議会保険医療材料専門部会  
専門委員意見骨子

平成 19 年 9 月 19 日  
松本 晃

1. はじめに

2. 医療機器・材料の特性

- (1) 医療機器・材料と医療の進歩
- (2) 患者のメリット
  - ① 低侵襲治療の実現
  - ② QOL の向上
- (3) 入院期間短縮等による医療経済的効果
- (4) 生産・流通に係る特徴
  - ① 多品種・少量生産
  - ② 短い製品寿命・重い研究開発負担

3. イノベーションの評価

- (1) 日本では既存製品（機能区分）の償還価格は一貫して下落
- (2) 新製品の積極的導入には製造販売業者への適切なインセンティブが必要
- (3) 医療機器特有の漸次的な改良についても、適切な評価が必要

4. 革新的な医療機器の早期導入

- (1) 国民のリスクに対するコンセンサスがな、わが国における薬事承認
- (2) 革新的な医療機器に対する保険償還の早期導入  
C1/C2 の導入頻度は年 4 回に増えたが、C1/C2 の標準的な審査期間のさらなる短縮を希望

5. 再算定（外国価格調整）制度

- (1) 信頼ある外国価格データの収集
  - ① 各機能区分に属する多種の製品の外国価格データを適切に把握すべき。そのためには医療機器・材料業界の協力が必須
  - ② 医療保険制度や薬事承認制度等の観点から比較可能性のある国のデータを採用
- (2) 再算定を今改定でも行うのであれば、混乱を最小限にするために、従来と同様な制度の運用が望ましい

以上